

病害虫発生予察情報

(1/2)
令和6年8月29日

令和6年度 病害虫発生予察情報(美濃地域) 9月予報

【 果樹 】

カメムシ類 * 病害虫発生予察注意報第4号 (R6.8.23付) 発表

岐阜市則松に設置した予察灯では、8月上旬からチャバネアオカメムシの誘殺数が平年を上回っています。中濃および東濃地域でも、引き続き本虫の発生が多くなっています。すでに一部のほ場では飛来が確認されているため、十分な注意が必要です。今後も高温傾向が予想されており、現在被害が認められていないほ場でも飛来する可能性があるので、防除を徹底してください。

【 大豆 】

ハスモンヨトウ * 病害虫発生予察注意報第3号 (R6.8.23付) 発表

岐阜・西濃および東濃地域に設置したフェロモントラップへの誘殺数が平年を大きく上回っています。本年は平年と比較し高温傾向で本虫の増殖に好適な条件が続くと考えられるため、ほ場での発生に十分注意し、発生が認められた場合は若齢幼虫のうちに防除を実施してください。

○主な病害虫の発生時期及び防除時期 (9月)

	病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	
水稲	生育(ハツシモ)	並	<穂ぞろい>						・8/13調査 (6/10田植: 農業技術センター)
	穂いもち	やや少			<発生最盛期>				・穂いもち 穂ばらみ期～穂揃期に防除を実施する。
	トビイロウンカ	少							・ツマグロヨコバイ 幼虫最盛期に防除を実施する。
	ツマグロヨコバイ	多		<第4世代幼虫>					・斑点米カメムシ類 穂ぞろい期～乳熟期に防除を実施する。
	斑点米カメムシ類	やや多	本田への侵入(出穂以降)						・斑点米カメムシ類 穂ぞろい期～乳熟期に防除を実施する。
	防除適期	▲	～	▲	穂いもち・斑点米カメムシ類・ツマグロヨコバイ				
大豆	生育(フクユタカ)	並		<着莢>					
	カメムシ類	多	本ぼへの侵入(着莢期以降)						・カメムシ類 着莢期から子実肥大期に防除する。
	ハスモンヨトウ	多	<発生量増加>						・ハスモンヨトウ 白変葉を認めたら直ちに防除する。
	防除適期								
かき	岐阜西濃 ハマキムシ類	並							・幼虫発生初期の防除を徹底する。
	中濃	やや多							・着色始期までに防除を実施する。
	防除適期								
	黒星病	やや多		<発生量増加>					・収穫後の秋期防除を徹底する。
果樹	防除適期		▲黒星病	～					
	カメムシ類	多	<新世代成虫>						・飛来が認められた場合は直ちに防除を実施する。
	防除適期								
野菜	灰色かび病	並	<発生量増加>						・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避ける。
	ハスモンヨトウ	多	<発生量増加>						・灰色かび病 花がらや葉先枯れは感染源となるため取り除く。
	タバコガ類	やや多	<発生量増加>						・アブラムシ類 苗からの持ち込みに注意する。
	アブラムシ類	やや少							・ハスモンヨトウ・タバコガ類 若齢幼虫期の防除を徹底する。
	コナジラミ類	多							・コナジラミ・アザミウマ類 施設栽培では虫媒性ウイルスへの感染防止のため、防虫ネット展張による侵入防止と定植時の粒剤施用を徹底する。
	アザミウマ類	やや少							
	防除適期								

注1) ▲、▲～▲: 防除適期

注2) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域

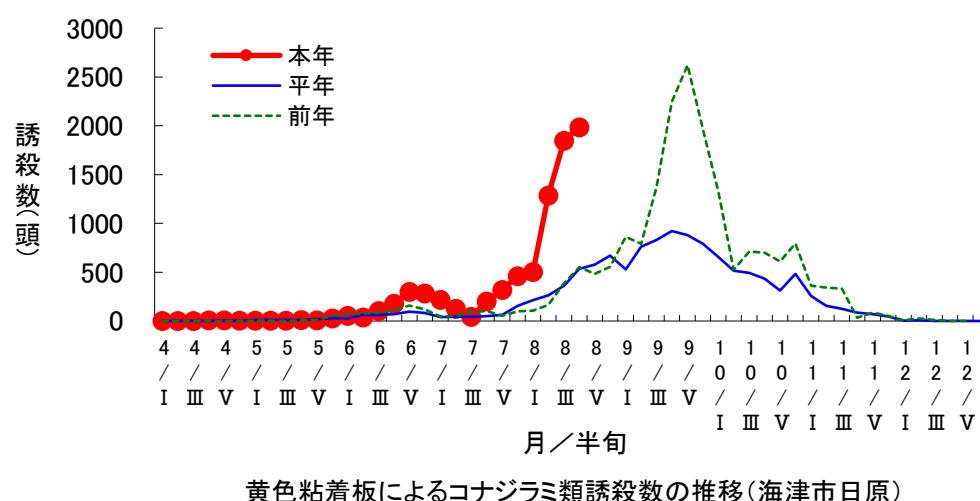
注3) 用語の定義及び基準については「発生予察事業の調査実施基準」に準ずる

吸実性カメムシ類

西濃地域では、予察灯によるカメムシ類の誘殺が平年より多く認められています。成虫は莢の伸長後期から子実肥大中期を最も好むことから、着莢期から子実肥大期の防除を確実に実施してください。

コナジラミ類（タバココナジラミ）

タバココナジラミはトマト黄化葉巻病の病原ウイルスを媒介します。コナジラミ類の誘殺数は6月下旬から平年より多く推移し、7,940頭（6/1～8/IV半旬累計）と平年の約3.5倍と多くなっています（図）。今後、本虫の数が多い状態が続くと考えられるので、コナジラミ類の施設内への侵入防止のため、防虫ネットの展張や施設周辺の除草の他、定植時の粒剤の施用、黄色粘着テープの設置など対策を強化するとともに、ほ場における黄化葉巻病の発生に注意してください。

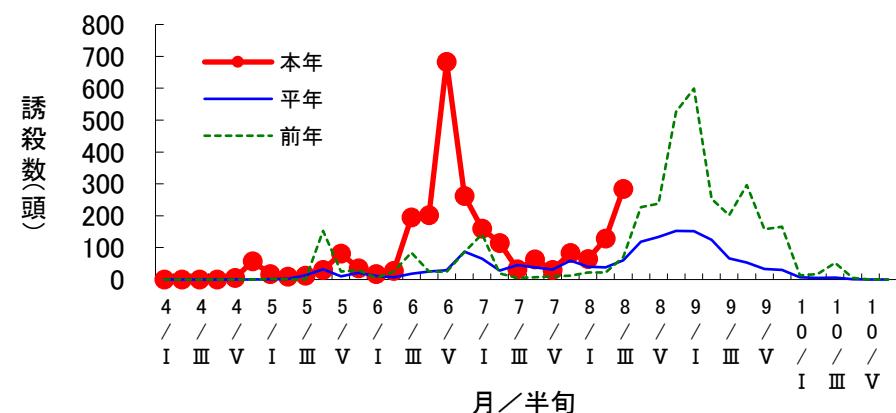
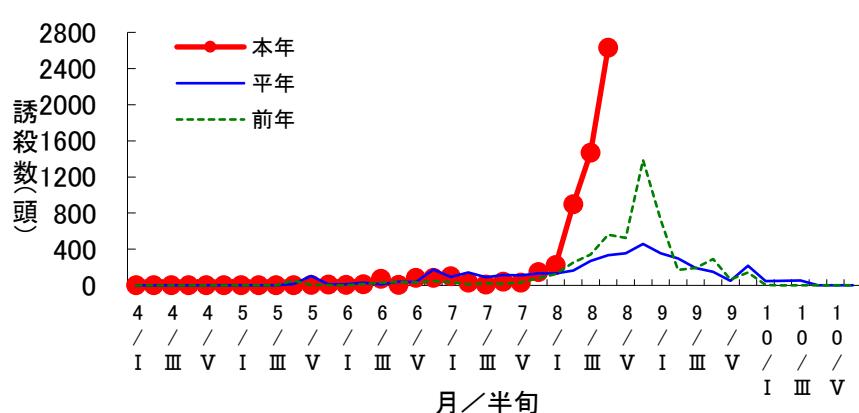


タバココナジラミ
(撮影地：輪之内町)

果樹カメムシ類 * 病害虫発生予察注意報第4号 (R6.8.23付) 発表

果樹カメムシ類は8月上旬以降増加し、岐阜市と美濃加茂市に設置した予察灯では、チャバネアオカメムシの誘殺数が平年を上回っています（図）。また、チャバネアオカメムシ新世代成虫が果樹園に飛来する目安となるヒノキ毬果の口針鞘数（カメムシの吸汁痕）が増加しています（表）。口針鞘数が1果当たり25本に達すると、ヒノキ林からの離脱が始まるとされていますが、地点によっては9月上旬には離脱が始まると予測されます。カメムシの飛来を確認したら、直ちに防除を実施してください。

表 ヒノキ1果当たりの口針鞘数 (本/果)				
	岐阜市 東秋沢	大野町 寺内	美濃加茂市 下米田	美濃市 曾代
8月上旬	3.7	17.5	16.4	7
8月中旬	16.3	—	12.3	—
8月下旬	24.9	17.3	20.9	14.4



農薬の安全使用に努めましょう！！

農薬の適正な使用、保管管理に努め、農薬を散布する場合は、周辺に栽培されている作物のみでなく住宅地等を含めて飛散がないよう、十分に配慮してください。

東海地方1か月予報 (名古屋地方気象台 8月22日発表)

向こう1か月の気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並と予想されています。暖かい空気に覆われやすいため気温は高くなるでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他にも病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/24321/>

〒501-1152 岐阜市又丸 729-1 TEL (058)239-3161 FAX (058)234-0767



岐阜県病害虫防除所
トップページ
二次元バーコード